



武蔵野

学校だより NO. 7
平成29年10月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 岡部 操

「いのち」いっぱい輝く

副校長 星野 典靖

9月9日（土）に開催された芝生フェスティバルは、PTA、各自治会、地区委員会等、多くの皆様にお力添えをいただき、大盛況の内に終わることができました。

今回の芝生フェスティバルは5、6年生がアトラクションに参加しました。当日までの期間が短い中、子供たちは友達と協力しながら意欲的に準備し、みんなに楽しんでもらおうと精一杯頑張りました。その姿はどの子どもとても輝いていました。下級生はもちろん、PTAや地域の皆様からたくさんの励ましや声援をいただいたことが、頑張る原動力となったのだと思います。心より感謝申し上げます。

そして、次に全学年の子供たちが輝く行事が「第44回運動会」です。

本番までには、演技を間違えたり、技を失敗したりと様々なつらく苦しい練習があります。それら目の前の障壁を一つ一つ乗り越えることで、子供たちは大きく成長します。

学校は、間違いや失敗を恐れず、それらから多くのことを学びとって行く場所です。うそをついて叱られたり、けんかした友達と仲直りをしたり、大事な場面でミスをして仲間迷惑をかけたり、子供たちは多くの間違いや失敗を乗り越えながら生きていく上で大切なものを学びとっていきます。

学校で指導する大切なものの1つが「いのち」です。しかし、「いのち」は失ってからその大切さが分かったのでは遅いのです。なぜなら、自分の失敗を通して学ぶことができない「1回性」や、人間の手で作り出すことができない「非再現性」という特性があるからです。

また、奇跡と必然の中から生まれた「いのち」が、繁栄と絶滅の歴史を繰り返しながら今日までつながってきた「連続性」も大切な視点です。これには、生命体として次世代へつなげていくことだけではなく、思想・文化・伝統など心と心のつながりも含まれます。肉体は死んでも、なお心の中で生き続ける「いのち」があることも忘れてはなりません。

長い歴史の中で、広い世界の中で、今ここに生きている自分がいます。この「偶然性」も大切な視点です。しかし、この偶然が、かけがえのないものであるということも、人生を肯定的に感じ取り、お互いの関わり合いを確認し合うことから実感されていきます。

そして何より、「いのち」の教育は、知識を学んで終わりというのではなく、生き続け、学び続けるという性格も持っています。生涯に渡り「いのち」の大切さを感じ取り、自他の生命を尊重し続けることが重要です。

本校でも、その礎となる大切な「いのち」について指導していきたいと考えています。

最後になりましたが、「第44回運動会」にぜひご参会いただき、「いのち」いっぱい輝く子供たちの姿をご覧ください。ご声援、どうぞよろしくお願いいたします。